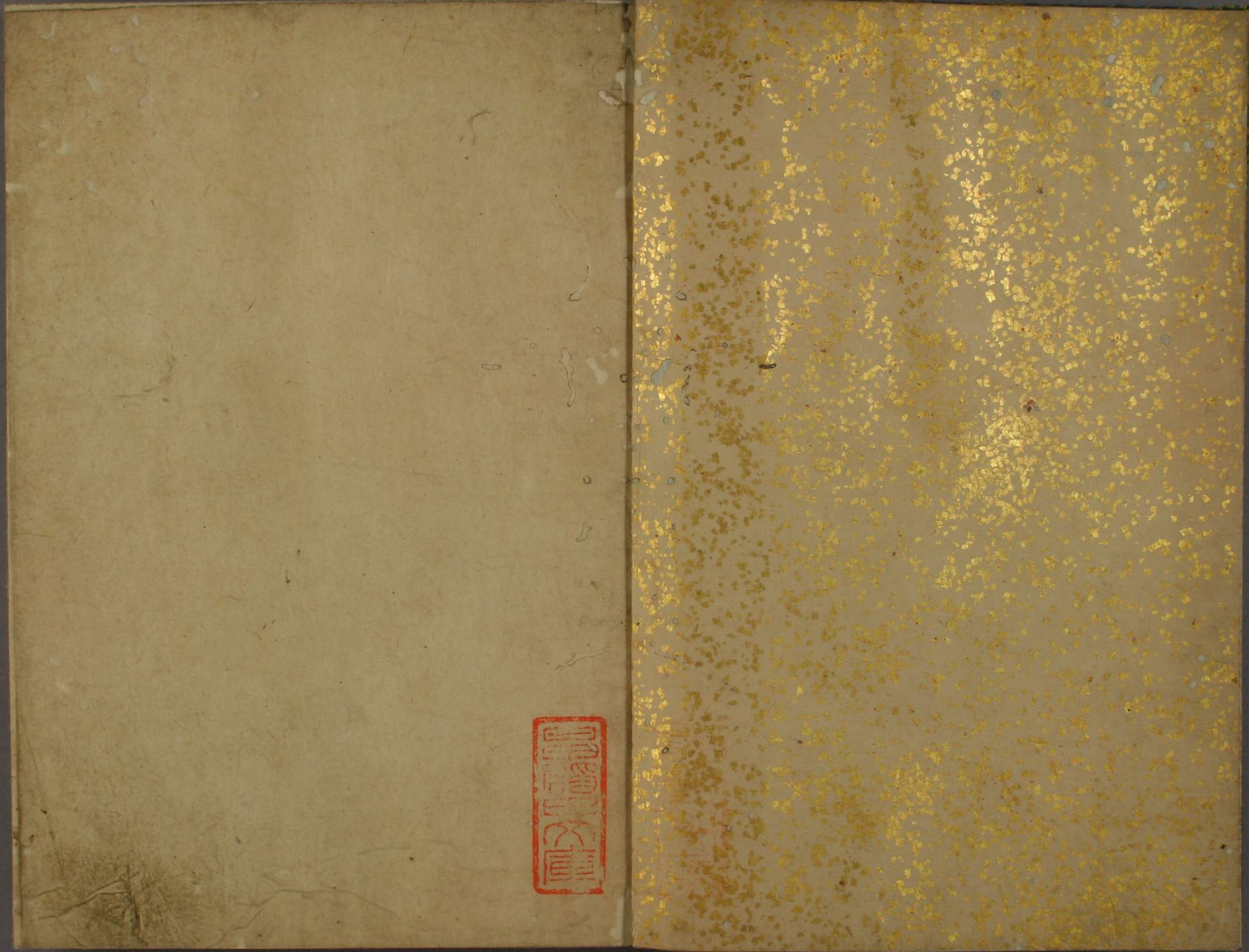
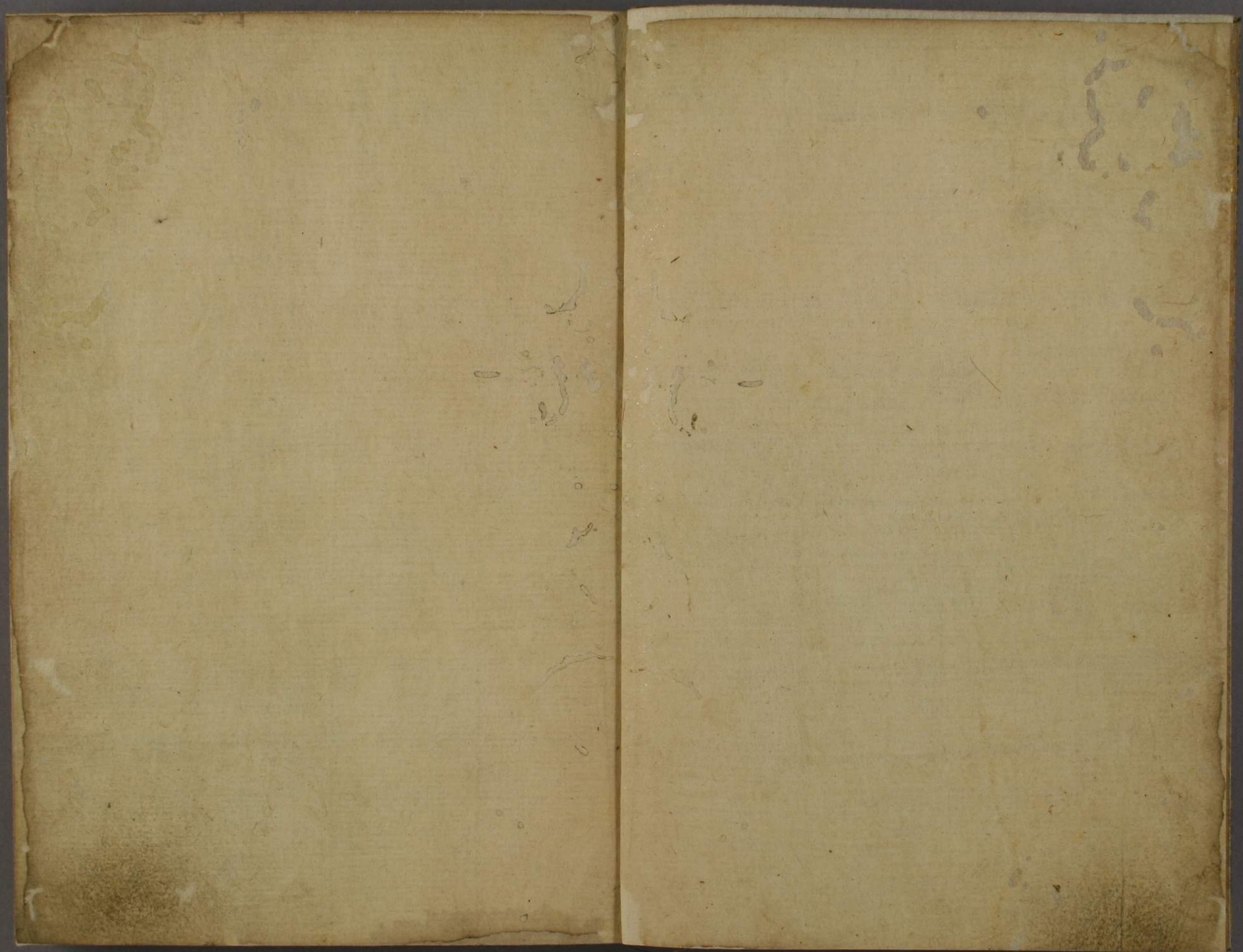


利12
3301





紅印



同十 安城より 二条の右 後弘安三年十月二日
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては

京に女ありては女

あはれやうに

あはれやうに

あはれやうに

あはれやうに

あはれやうに

二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては
 二条の右に御座りては 御座りては 御座りては

あはれやうに

左

之西京より

後よ東京より

五條の右の兄と

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

は...
 け...
 け...
 し...
 と...
 ま...
 う...
 ら...
 せ...

それ...
 ま...
 ま...
 ま...
 ま...

う...
 う...
 う...
 う...
 う...

海左の右の後と...
 大...
 大...

葉の右や...
 葉...
 葉...

あ...
 あ...
 あ...

あ...
 あ...
 あ...

あ...
 り...
 ら...
 ら...
 ら...
 ら...
 ら...
 ら...
 ら...
 ら...

おはなれ... 此の...
おはなれ... 此の...
おはなれ... 此の...

ともしく... 此の...
ともしく... 此の...

近頃... 雷鳴... 此の...
近頃... 雷鳴... 此の...
近頃... 雷鳴... 此の...

あけ... 此の...
あけ... 此の...
あけ... 此の...

あけ... 此の...
あけ... 此の...
あけ... 此の...

あけ... 此の...

あけ... 此の...
あけ... 此の...
あけ... 此の...

あけ... 此の...
あけ... 此の...
あけ... 此の...

あけ... 此の...
あけ... 此の...
あけ... 此の...

昭宣公一の元

て幸いませぬをねせうら

にほひの大徳をさへけ

まうおぼよみさうふし

てとてしてゝあはしたまう

かにいはいも是なりま

きふにちりけり

すうにちりけり

つまに

せ古

葉平左衛門の事 沙汰の事 ぶれをいふり又あしりきり九肖すに葉平左衛門の事 常流説 1 葉平左衛門の事 古流は程の 多き答あり不 用之定をさぬ 奥云可放初花言葉色

はしをいかにふりいとま

古の河の川にわたりてれしきまの川物りあつたすけのまをゆりて月とゆりて夜平とて能吟はて

やましりてゆりてゆり

はる南島島也後撰よ 八つ 活の打ををた ぼりくともをてん 葉をねをいれきてまを思をともめ 行まやまきくゆるとより

とふんよありはれ

世にさうりふんよありはれ 行つたはしおひのりきひりゆりうとあてかちし

まのうにゆりし

しりくひりゆり

あはれはけいふ ぼりあ ぼりあ ぼりあ ぼりあ ぼりあ ぼりあ ぼりあ ぼりあ ぼりあ ぼりあ

葉平此橋中傳

此後の事

いなるあし

いなるあし

いなるあし

いなるあし

葉平の事

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

いなるあし

いなるあし

いなるあし

いなるあし

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

葉平の事... 葉平の事... 葉平の事...

注の塩字 凡早也不可... 凡人... 不知也...

山崎... 彼のひ... 十中... 一をうれて...

伊豆... 流落の跡... 不合... 向或説云塩尻ノ注書入

大ま... 河と... 葉の... 種... 塩尻... 注書入

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

おろろ... たり... たり... たり... たり...

往る當年 舟早也 不可三月之...
もとよみ 船中の人各と云ふ...
船の借人の感泣し...
もとよみ 船中の人各と云ふ...
船の借人の感泣し...

わがやうな...
もとよみ 船中の人各と云ふ...
船の借人の感泣し...

母誰と云ふ...
船中の人各と云ふ...
船の借人の感泣し...
もとよみ 船中の人各と云ふ...
船の借人の感泣し...

もとよみ 船中の人各と云ふ...
船の借人の感泣し...

カウの里大和武元丹波...
もとよみ 船中の人各と云ふ...
船の借人の感泣し...

もとよみ 船中の人各と云ふ...
船の借人の感泣し...

と云ふ...
もとよみ 船中の人各と云ふ...
船の借人の感泣し...

漢文をたのみくはてしなきなり

かこいゆはまろくーまこい福まくるー

きてうはりまよびーあまこりたてをこ

せてのちまもせきありまをれま京り母

さきくふれあまのえんし
うきとまこころのあか
まのこころのあか
これらうの事まこころのあか

あまこりたてをこ

とるまをんまこりたてをこ

あまこりたてをこ

あまこりたてをこ

まこりたてをこ

まこりたてをこ

まこりたてをこ

まこりたてをこ

まこりたてをこ
まこりたてをこ
まこりたてをこ

まこりたてをこ

まこりたてをこ
まこりたてをこ
まこりたてをこ

まこりたてをこ

未摘花の巻に

天孫が勅物あるのありしをいふは...
 まつこいそまをんとし...
 まつこいそまをんとし...

まつきいそまをんとし...
 まつきいそまをんとし...

とるにか...
 とるにか...

おそく人またとて云ふ人...
 おそく人またとて云ふ人...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あてうとあは思見おま...
 あてうとあは思見おま...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あまのこひひ...
 あまのこひひ...

あはれ

のみもとに...
 のちいせり...
 〇

あはれ あはれ
 のちいせり...
 〇

あはれ

あはれ あはれ
 のちいせり...
 〇

あはれ あはれ
 のちいせり...
 〇

あはれ あはれ
 のちいせり...
 〇

あはれ あはれ
 のちいせり...
 〇

あはれ あはれ
 のちいせり...
 〇

あはれ あはれ
 のちいせり...
 〇

己の心は今日女のうらみもなれど...
あつたてのうらみもなれど...
あつたてのうらみもなれど...
あつたてのうらみもなれど...

さしひきあつたわらふれとらんま

物もたのめしあつた思見抄に...
小町とあつた思見抄に...
思見抄に...
思見抄に...
思見抄に...

こころのやま

菊のいさうらうらふ...
おもしろい...
おもしろい...
おもしろい...
おもしろい...

おもしろい...
おもしろい...
おもしろい...

好むの事になれりて...
女の神のまこと...
おもしろい...
おもしろい...

おもしろい...
おもしろい...
おもしろい...

湯屋の右の...
おもしろい...
おもしろい...
おもしろい...

おもしろい...
おもしろい...
おもしろい...

おもしろい...
おもしろい...
おもしろい...

あつたてのうらみ...
あつたてのうらみ...
あつたてのうらみ...
あつたてのうらみ...

はらうにやぶるみゆるとて

とつりきれいねいせ

はまをいぬとて心もろくやうりあはれにまて直付外うきこのまの凡のときりたかて風うきかたにまてん
やうりあはれとてまをいぬにまて直付外うきこのまの凡のときりたかて風うきかたにまてん
にいりあはれにまて直付外うきこのまの凡のときりたかて風うきかたにまてん
やうりあはれとてまをいぬにまて直付外うきこのまの凡のときりたかて風うきかたにまてん

らみろふのせとやこたわ

とよがりきおまさらおなこあるひとふんい

愚見 名仲久 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や
けしとて 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や
交はるるを しり けしとて 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や
交はるるを しり けしとて 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や
交はるるを しり けしとて 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や
交はるるを しり けしとて 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や
交はるるを しり けしとて 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や
交はるるを しり けしとて 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や
交はるるを しり けしとて 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や
交はるるを しり けしとて 宿學とて 礼記 三書 けし 地まやとよる 大和 河系 女を名 系に けり 女や

前つにぬきおはるふのまの

おろろみちにやぶいりりい

のいとねいり死なるとんふのり

よりいじやぶ

きこりたけきおまさら

おろろみちにやぶいりりい

わつしきりきれおろ

とつりきれいねいせ

はまをいぬとて心もろくやうりあはれにまて直付外うきこのまの凡のときりたかて風うきかたにまてん
やうりあはれとてまをいぬにまて直付外うきこのまの凡のときりたかて風うきかたにまてん
にいりあはれにまて直付外うきこのまの凡のときりたかて風うきかたにまてん
やうりあはれとてまをいぬにまて直付外うきこのまの凡のときりたかて風うきかたにまてん

是れ男のつとめあし思ひやまし
 女の涙をながしや
 まらん思ひやまし
 人衆まをされしをされま
 併にがひめすまし
 男の涙をながしや
 念一休てをま
 目かちやま
 まよの同じくあつ申に
 同一年

せめてこそれきよの種を
 まるをせまらぬとま

くのくらくにまらやし
 くのくらくにまらやし

や

このちよとてつとめあし
 まらん思ひやまし

今又申すやまも又お物を
 まらん思ひやまし
 まらん思ひやまし
 まらん思ひやまし
 まらん思ひやまし

今又申すやまも又お物を
 まらん思ひやまし

かのくらくにまらやし
 かのくらくにまらやし

いふのちかたしめしめ

（事ある）
後將立五女所のしものよきものかきつたあちのつとよたをたしめしめ

二二 じうーるれをたきまえにきかぬふりまなむ

くしやうりけむせぬのり

一度別て後よりきかぬをたきまえにきかぬふりまなむ
あひれ物もたきまえにきかぬふりまなむ

（事ある）
あまのこゝろのしめしめ

あまのこゝろのしめしめ

あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ

あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ

わらうーるれをたきまえにきかぬふりまなむ

秋のあまのこゝろのしめしめ

あまのこゝろのしめしめ

あまのこゝろのしめしめ

あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ
あまのこゝろのしめしめ

田舎のいふ言にまぬかりにゆきし何の答もなからしむ馬鹿の言のほろむらり

二三すーおあつたーしーもかた人のいふ言を

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

昔の言に男も女もいふ言のうらみは者かき有

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

昔の言に男も女もいふ言のうらみは者かき有
おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

昔の言に男も女もいふ言のうらみは者かき有
おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

昔の言に男も女もいふ言のうらみは者かき有
おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

おはよういへへおはひきつはなまよへちりよふれ

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

拾穂所
五條...

びりーた...
びりーた...
びりーた...

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

あはれに
あはれに
あはれに

上にはかみのかつとちうを夜に花よびかぬ歌とまにまは右のほすくわつあまきまればひまをそとくけはか
なむとちうをそとくけ
さうは右后早の花花よあはれこも死あいつとせせり
はなあふきり能石部をこもきく内院きれあはれあふく喉嘆し感謝かんせのすしとま

かあこころしりあふまればいふ

思得 ひりたまひのたかきけつ女のまもよ

おの法よりいひこころしりあふまればいふ

けいせいの内様すく為の若とらりまろひのあはれとまにまは右のほすくわつあまきまればひまをそとくけはか
なむとちうをそとくけ
さうは右后早の花花よあはれこも死あいつとせせり
はなあふきり能石部をこもきく内院きれあはれあふく喉嘆し感謝かんせのすしとま

新下向ヤンノト師談
やうきよはよふんころんころん男

法苑經音門品呪咀諸毒禁厭欲害身者念彼觀音力還善有於本人やとをいふとあくふり
あくれと人をいひこころしりあふまればいふ

はなもあはれをいひこころしりあふ

あつひのこころしりあふまればいふ

まーれいひれ女ーしーはあつて 麻園巻

方のいひれと云昔と云同事いふふとめばあまに位ありそにまのまののこころしりあふまればいふ
あつひのこころしりあふまればいふ
あつひのこころしりあふまればいふ

まゝ危のゆや業子の初初とまろ切とあつてまろをまてかろあつてしほまひと落せば又あつて
まゝ危のゆや業子の初初とまろ切とあつてまろをまてかろあつてしほまひと落せば又あつて

業子の女を
標列危原殿

あはれおぼし

ひるのちやをけりてうれしえもぬ地れとやまにありけはみゆ地後をも人にさそふ神と
もとにふくありて
かやまにけりて
しと世をけりて
まじにこころけりて
まじにこころけりて

わ

こころしと云いあふしをまかすけりてのちをけりていれなりしうこやとみえをゆめはひるの
しりあふしと云いあふしをまかすけりてのちをけりていれなりしうこやとみえをゆめはひるの
まじにこころけりて
まじにこころけりて
まじにこころけりて

はちをけりてまじあふしをまかすけりてのちをけりていれなりしうこやとみえをゆめはひるの

井あひひるのこころけりてのちをけりていれなりしうこやとみえをゆめはひるの
まじにこころけりて
まじにこころけりて
まじにこころけりて

洞古と云いあふしをまかすけりてのちをけりていれなりしうこやとみえをゆめはひるの
まじにこころけりて
まじにこころけりて
まじにこころけりて

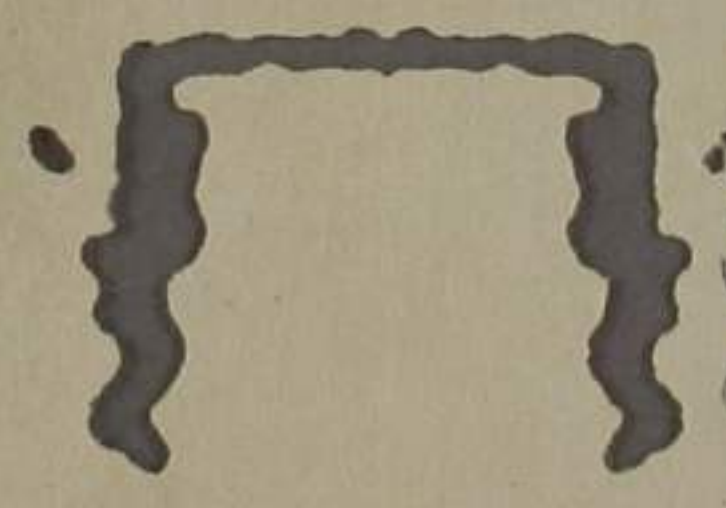
はれりて今ほしと云いあふしをまかすけりてのちをけりていれなりしうこやとみえをゆめはひるの
まじにこころけりて
まじにこころけりて
まじにこころけりて

はむのちやをけりてうれしえもぬ地れとやまにありけはみゆ地後をも人にさそふ神と
もとにふくありて
かやまにけりて
しと世をけりて
まじにこころけりて
まじにこころけりて

まじにこころけりて

あはれおぼし

四十五
 カシツクノ字
 冊傳
 迷
 久シク
 見
 夏
 乃
 名
 字



人 人

西院のみし淳和天皇を思見には帝と遺詔より大原野に御身をかさけをりて西院の帝と

西院の帝
淳和天皇

この名をれしは 淳和天皇内親王母橘舟子四位上法親王兼和十五年五月十五日薨

諱大伴
桓武第弟三白王

此のみこそせはひくおん フトヨム 方の北のま

西院四條北
西大宮東

のともちかきける あつと書ありて ねんらん

又諱淳和

ふ車は あつと書ありて なる

うらら あつと書ありて

あつて あつと書ありて なる

あつと書ありて

この車と あつと書ありて なる

ま あつと書ありて なる

この あつと書ありて なる

ふん あつと書ありて なる

今 あつと書ありて なる

あ あつと書ありて なる

りの あつと書ありて なる

前の業平の言れ あつと書ありて なる

此は滅のつとまれいき住不滅の故

結ぬききりくは云ハ大なり
大福のみにけの字をまじり
順に定む乃一つめの
天啓の帝の御は
源小至嵯峨天皇王

源小至嵯峨天皇王

そこの女をほくひやんまひこりた
あまのやまのきりかへ

全
附

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

ふりきれをわらひ
朝庭葉如詩

つとめを
つとめを

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

あまのやまのきりかへ
あまのやまのきりかへ

今のは地蔵菩薩をひくに二百年は國が去る年あると云ふの所のすゝめしういふに人の世は
いふあふ
あふれ
けしあむなむしきを人のくいにいふる

そいともて終とさきひくわれまきり日のる

そいそいれあまらむさきまらえはいんせ

月日め^{cut}きりきりまらやいぬひよけんた

いもいひりむいふんけり世中の人のうら

けりあまらむさきまらえはいんせ

目録
己の終いよんせ

こゝの地蔵菩薩をひくに二百年は國が去る年あると云ふの所のすゝめしういふに人の世は
いふあふ
あふれ
けしあむなむしきを人のくいにいふる

とれいふきれいなむらけりよまきり

ひりばい福んりいふとねむりむらけり

されとこがこいあむらけりむらけり

けりあむらけりむらけり

大ぬさの後のきりこれのきりあむらけりむらけり

おきりえいりきりあむらけりむらけり

おきりえいりきりあむらけりむらけり

大ぬさの後のきりこれのきりあむらけりむらけり

旅の人のよりのそれゆへせんとされしをききし事なき
ははよらむにわづらひし事なき

さしつかへなきにわづらひし事なき

よき事なきにわづらひし事なき

はさき今才十八の詞に記利貞うたはせし事なき
よき事なきにわづらひし事なき

平じりーおん、さうやめいとちうけ
けりし事なき

おん

昔にききし事なきにわづらひし事なき
よき事なきにわづらひし事なき

おのやひん、おん、おん

ときこころりぬ

よき事なきにわづらひし事なき
よき事なきにわづらひし事なき

おのやひん、おん、おん

平じりー男ありきりし事なき

よき事なきにわづらひし事なき
よき事なきにわづらひし事なき

おのやひん、おん、おん

おのやひん、おん、おん

おのやひん、おん、おん

電光朝露の如き物をそりすればはたかなしめり
たれんかさかればはたかなしめり
てとわらへてきけれり
はたかなしめり
るるくさるるさるる

又たよ
あふ
あふ
あふ
あふ

又たよ

經文亦如益水隨唇隨舌
水工如數書部命味相受日鶴鴨

馬を
馬を
馬を
馬を

又たよ

物話の作者の何れ
物話の作者の何れ
物話の作者の何れ
物話の作者の何れ

ちり
ちり
ちり
ちり

又たよ

花
花
花
花

又たよ

昔男婦て思ひをまけ思ひくつらまりて

伏して思ひ起て思ひ若次頼沛三時河津津地きつらめくつら思ひに思ひをぬれぬれ思ひのまゝ
かまひ思ひ起て思ひ若次頼沛三時河津津地きつらめくつら思ひに思ひをぬれぬれ思ひのまゝ
思ひ起て思ひ若次頼沛三時河津津地きつらめくつら思ひに思ひをぬれぬれ思ひのまゝ
思ひ起て思ひ若次頼沛三時河津津地きつらめくつら思ひに思ひをぬれぬれ思ひのまゝ

五十二

三十三

思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ

五十二所要し年月は思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ

長巻一伊豆内親王のまゝ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ

思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ

思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ

思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ

思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ
思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ

思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ思ひぬれぬれ

思ひぬれぬれ

女

三三三... 昔年の跡... 女... 三十三

あつちのけん... くにやりのれ... 一... ありつる...

きりりわり... ありのあり...

あつちのけん... くにやりのれ... 一... ありつる...

あつちのけん... くにやりのれ... 一... ありつる... 常流...

中將の夜愛と云々をせんと云々^〆と云々

世はわが世男と云々^〆と云々

世はわが世男と云々^〆と云々

世はわが世男と云々^〆と云々

世はわが世男と云々^〆と云々

世はわが世男と云々^〆と云々

世はわが世男と云々^〆と云々

世はわが世男と云々^〆と云々

は女推少^〆と云々^〆と云々^〆と云々

いりてこれ立五中將^〆と云々

いりてこれ立五中將^〆と云々

いりてこれ立五中將^〆と云々

いりてこれ立五中將^〆と云々

いりてこれ立五中將^〆と云々

いりてこれ立五中將^〆と云々

わかちしり九十九と云々^〆と云々

わかちしり九十九と云々^〆と云々

わかちしり九十九と云々^〆と云々

わかちしり九十九と云々^〆と云々

あつたき... 世の女... 結 ^結

あひく... 女... ^結

はるか... 女... ^結

あの中... 女... ^結

あひく... 女... ^結

あひく... 女... ^結

あひく... 女... ^結

あひく... 女... ^結

万旋頭... 玉... 鶏... 菜根... 乳根... 母... 秋... 問... 者... 風... 跡... 將... 中...

あひく... 女... ^結

あひく... 女... ^結

かきかたはしは初はりの花冠をまきりけりてふくまへし中ふれりて夢をさしりてふくまへし
むら後藤の
きりて
むら初ゆえ整々天巨女或天巨の程
きりて

ふら終るるちりきりたけもよとむ而してまじ

りりかふいとちりきり殿上りけりてひける

あつりりちりける木とこれまゝいとちりける

かきゆかされうらうらぬまの人のせとせとゆりてふくまへし中ふれりて夢をさしりてふくまへし
葉早の申す
しりて
ふら初ゆえ整々天巨女或天巨の程
きりて

あつりりちりける木とこれまゝいとちりける

あつりりちりける木とこれまゝいとちりける

あつりりちりける木とこれまゝいとちりける

サモラシ

新古今

たもふにさしりてふくまへし中ふれりて夢をさしりてふくまへし

あつりりちりける木とこれまゝいとちりける

さうしにかたはしは初はりの花冠をまきりけりてふくまへし中ふれりて夢をさしりてふくまへし
きりて
むら初ゆえ整々天巨女或天巨の程
きりて

あつりりちりける木とこれまゝいとちりける

あつりりちりける木とこれまゝいとちりける

あつりりちりける木とこれまゝいとちりける

さうしにかたはしは初はりの花冠をまきりけりてふくまへし中ふれりて夢をさしりてふくまへし
きりて
むら初ゆえ整々天巨女或天巨の程
きりて

あつりりちりける木とこれまゝいとちりける

さうしにかたはしは初はりの花冠をまきりけりてふくまへし中ふれりて夢をさしりてふくまへし
きりて
むら初ゆえ整々天巨女或天巨の程
きりて

すしされば登東の... 上目とねといひく... 年と云う... けり... 殿と云
目と云... 年... 上目とねといひく... 年と云う... けり... 殿と云
目と云... 年... 上目とねといひく... 年と云う... けり... 殿と云
目と云... 年... 上目とねといひく... 年と云う... けり... 殿と云
目と云... 年... 上目とねといひく... 年と云う... けり... 殿と云

わさ... の... けり... 殿と云
わさ... の... けり... 殿と云
わさ... の... けり... 殿と云
わさ... の... けり... 殿と云
わさ... の... けり... 殿と云

古今十... 人... 不... 不... 不... 不...
古今十... 人... 不... 不... 不... 不...
古今十... 人... 不... 不... 不... 不...
古今十... 人... 不... 不... 不... 不...
古今十... 人... 不... 不... 不... 不...

いひく... 人... 不... 不...
いひく... 人... 不... 不...
いひく... 人... 不... 不...
いひく... 人... 不... 不...
いひく... 人... 不... 不...

空... 物... 清和天皇... 魚... 未... 風... 瑞... 生... 命... 命... 命...
空... 物... 清和天皇... 魚... 未... 風... 瑞... 生... 命... 命... 命...
空... 物... 清和天皇... 魚... 未... 風... 瑞... 生... 命... 命... 命...
空... 物... 清和天皇... 魚... 未... 風... 瑞... 生... 命... 命... 命...
空... 物... 清和天皇... 魚... 未... 風... 瑞... 生... 命... 命... 命...

福のしるしをいふ一列とてなするべし

いふれは女はひはたして福はひひりにならば

一きこりたり男は福はるも終はるる

又てしてゆせらに月のおほらあるにらいたわは

をさたよき人たたり男はう終てわら

あよせていつ福はひひりたり

高階氏ハ母又版して今には成るまゝ石

あけく福はひひりたり

わらへはわらわらあはははははははははは

いふれはあきくはしてあけくはひひり

あけく

古今事三十二母受けるもふ人のあきくはひひり

業はくもかたののまはひひり

いふれはあきくはしてあけくはひひり

君やこいあやうとてあけくはひひり

あけくはひひり

とらてわらわらあはははははははははは

くくこゝしたよ人きはめていやは疾あんとたふに
伊豫守文官の取とてあつたのりきりあひとよきもあつた

こゝきこて取ひよまゆけのこゝきれおとよひきりんとあつたあひひ

こゝきえせていひきは伊豫守文官の取とてあつたのりきりあひとよきもあつたあひひ

たこも人きはめていやは伊豫守文官の取とてあつたのりきりあひとよきもあつたあひひ

くくおけあふととれあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

はたのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

ととあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

まのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あひひのけいこゝきあひひ酒堂 和名志利佐二た 伊豫守文官あひひ

あつた御守りたる書州者うらまきし御守をさるるあつた御守あつた御守は御守に...あつた御守

新古今 **たのしみ** ちのしみよちのしみめはつた御守

ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守

ちのしみよちのしみめはつた御守

真を摺子名

ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守

ちのしみ

ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守
ちのしみよちのしみめはつた御守

祢のいさむらみらあつた御守

ひら男いせれくにかりぬれ女えつた御守

おのいさむらみらあつた御守

おのいさむらみらあつた御守
おのいさむらみらあつた御守
おのいさむらみらあつた御守
おのいさむらみらあつた御守
おのいさむらみらあつた御守

おのいさむらみらあつた御守

おのいさむらみらあつた御守

万葉

おのいさむらみらあつた御守
おのいさむらみらあつた御守
おのいさむらみらあつた御守
おのいさむらみらあつた御守
おのいさむらみらあつた御守

御子奈何責

しにたまはむきりて

香山平水と海峯の間にあつた山より流るる河川に...

香野河原の國をわたりて、またあかしの海へ

うるとはして、まのひたすまをえらぶ人の心...
いとくまをてはかすかひりぬ持はふとい

神めけて、わたりのつらさうにわたりて
スラバあまそやまをともはれ

女
まのまをわたりて、あかしの海へ...
あまのつらさうにわたりて、まのつらさうにわたりて

又たとい
あまのつらさうにわたりて、まのつらさうにわたりて

世のあまのつらさうにわたりて、まのつらさうにわたりて

よりやりのりよ... といふまじよきり... といふまじよきり...

氏の中は親まのなれ... 昔氏のふりにみ... けりよ... けりよ...

まればきこふのよめる

東門の取一門と... 祈ふ祝詞... 業于好之此...

これはは... けりよふのけ油...

昔集才二葉... 今集才二葉... 今集才二葉...

人のかたへ... けりよふのけ油...

今集才二葉... 今集才二葉... 今集才二葉...

昔たのわ... けりよふのけ油...

けりよふのけ油... けりよふのけ油...

水金池無三伏... 松本凡有一聲... けりよふのけ油...

かゝ伊豆市親王貞親三年九月

あの子、きううらふたてよめ
夜一カの内とるきううらふたてよめ
目蓮の母のふま蓋蘭也
まゆとくしは同日を

ちよとて、のれむめこれきと

まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ

まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ

まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ

まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ

まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ

まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ

まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ
まうたたりからわけのさげへ

まうたたりからわけのさげへ

ひー 下つたおとこ さいふと ちひさしな ちひさしな

おちつたおとこ さいふと ちひさしな ちひさしな

さうして ちひさしな ちひさしな ちひさしな

やぶさか ちひさしな ちひさしな ちひさしな

今更にならぬ ちひさしな ちひさしな

さうして ちひさしな ちひさしな ちひさしな

さやみ ちひさしな ちひさしな ちひさしな

はな ちひさしな ちひさしな ちひさしな

若年のしー ちひさしな ちひさしな ちひさしな

かこ ちひさしな ちひさしな ちひさしな

若年の里 ちひさしな ちひさしな ちひさしな

ちー 男は 国守 ちひさしな ちひさしな

さうして ちひさしな ちひさしな ちひさしな

今更にならぬ ちひさしな ちひさしな ちひさしな

さうして ちひさしな ちひさしな ちひさしな

さやみ ちひさしな ちひさしな ちひさしな

はな ちひさしな ちひさしな ちひさしな

若年のしー ちひさしな ちひさしな ちひさしな

かこ ちひさしな ちひさしな ちひさしな

まの海のかげにちかきと砂のうらみと見ゆる人々を遠く見送る
まの海のかげにちかきと砂のうらみと見ゆる人々を遠く見送る

みづのうらみと見ゆる人々のたきこえり
みづのうらみと見ゆる人々のたきこえり

ふりよ二十ふひりさ五ふひりあるい
ふりよ二十ふひりさ五ふひりあるい

あつちよふいよとほは久しんやうにい
あつちよふいよとほは久しんやうにい

はれきたるうえに（巻末）あつちよふいよとほは
はれきたるうえに（巻末）あつちよふいよとほは

てきういあつちよふいよとほは久しんやうにい
てきういあつちよふいよとほは久しんやうにい

せういあつちよふいよとほは久しんやうにい
せういあつちよふいよとほは久しんやうにい

ふれよみふきたのういよまはのあつちよふいよとほは
ふれよみふきたのういよまはのあつちよふいよとほは

あつちよふいよとほは久しんやうにい
あつちよふいよとほは久しんやうにい

あつちよふいよとほは久しんやうにい
あつちよふいよとほは久しんやうにい

あつちよふいよとほは久しんやうにい
あつちよふいよとほは久しんやうにい

あつちよふいよとほは久しんやうにい
あつちよふいよとほは久しんやうにい

あつちよふいよとほは久しんやうにい
あつちよふいよとほは久しんやうにい

あつちよふいよとほは久しんやうにい
あつちよふいよとほは久しんやうにい

かきとえいさなすうらな
せうりてい
かきとえいさなすうらな
せうりてい

百五十五
かきとえいさなすうらな
せうりてい
かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

百五十六
かきとえいさなすうらな
せうりてい
かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

かきとえいさなすうらな
せうりてい

うさぎは、まてたまはうしをいりねちちとへん
うさぎは、まてたまはうしをいりねちちとへん
うさぎは、まてたまはうしをいりねちちとへん
うさぎは、まてたまはうしをいりねちちとへん
うさぎは、まてたまはうしをいりねちちとへん

てやわつしまるけいねんあつさあ
てやわつしまるけいねんあつさあ
てやわつしまるけいねんあつさあ
てやわつしまるけいねんあつさあ
てやわつしまるけいねんあつさあ

あしきまらちまははん

あしきまらちまははん
あしきまらちまははん
あしきまらちまははん
あしきまらちまははん
あしきまらちまははん

じう二条まてたけいけいなる男あつさあ
じう二条まてたけいけいなる男あつさあ
じう二条まてたけいけいなる男あつさあ
じう二条まてたけいけいなる男あつさあ
じう二条まてたけいけいなる男あつさあ

あつさあ
あつさあ
あつさあ
あつさあ
あつさあ

あつさあ

あつさあ

ましした昔浦の徳たのころりつるいふれゆねの
 やつとありてかりとれ人のかぎりたは字あり
黒田より年々寄るいふくつた年々寄るいふくつた
 とまじくうよはつるりたる中毎ゆらりり
若原良直より年々寄るいふくつた年々寄るいふくつた
 ちつといふはふまはつるいふくつた年々寄るいふくつた
初年の登壇
 つつとまうけーきりりあつたふまはつるいふくつた
 かにいふれをさせりそのふのなるにあわー
 未あらた花つるりりりそのふい三人六寸は
 つつと年々寄るいふくつた年々寄るいふくつた

かにいづるいふくつた年々寄るいふくつた
 まじくうよはつるりたる中毎ゆらりり
若原良直より年々寄るいふくつた年々寄るいふくつた
 ちつといふはふまはつるいふくつた年々寄るいふくつた
初年の登壇
 つつとまうけーきりりあつたふまはつるいふくつた
 かにいふれをさせりそのふのなるにあわー
 未あらた花つるりりりそのふい三人六寸は
 つつと年々寄るいふくつた年々寄るいふくつた

てよませまはつるいふくつた年々寄るいふくつた
藤原忠信の字の二つ
 かにいづるいふくつた年々寄るいふくつた
 まじくうよはつるりたる中毎ゆらりり
若原良直より年々寄るいふくつた年々寄るいふくつた
 ちつといふはふまはつるいふくつた年々寄るいふくつた
初年の登壇
 つつとまうけーきりりあつたふまはつるいふくつた
 かにいふれをさせりそのふのなるにあわー
 未あらた花つるりりりそのふい三人六寸は
 つつと年々寄るいふくつた年々寄るいふくつた

藤原忠信の字の二つ
 けきの返向と今席のらむ

はしりてはちかきひくよるぶとあまほむけつふ
はしりてはちかきひくよるぶとあまほむけつふ
はしりてはちかきひくよるぶとあまほむけつふ

この世の如くして... 礼法... 人倫... 天啓... 地の如く... 世の如く... 礼法... 人倫... 天啓... 地の如く... 世の如く... 礼法... 人倫... 天啓... 地の如く... 世の如く...

きれいなるわすれ

よめ... 心... あり...

心... あり...

ひー... あり...

あつ... あり...

あつ... あり...

あつ... あり... 心... あり... あり...

あつ... あり... 心... あり... あり...

書末の頁に「...」の注は自注とつて思はれり。...
 字のくまにあらず。小の字は...
 厚はかりのりも...

せものよりいへんよ...
 きりか...
 せものよりいへんよ...

かの海へ...
 ...
 ...

こけい歌宮の...
 ...

...
 ...

...
 ...

...
 ...

...
 ...

...
 ...

東集才士六表傷の身は地者紀

ひりーおとこはをきりりの人をうーあは

もとにやあり

東集才士六表傷の身は地者紀
花よりしーはしほいにたかにき

うきはたはよーいんとうる

ひりーおとこはをきりりの人をうーあは

うきはたはよーいんとうる

きれき

東集才士六表傷の身は地者紀
花よりしーはしほいにたかにき
うきはたはよーいんとうる

東集才士六表傷の身は地者紀

ひりーおとこはをきりりの人をうーあは

うきはたはよーいんとうる

東集才士六表傷の身は地者紀

ひりーおとこはをきりりの人をうーあは

うきはたはよーいんとうる

東集才士六表傷の身は地者紀
花よりしーはしほいにたかにき
うきはたはよーいんとうる

きりしめいねいくよるぬる

をきりしめいねいくよるぬる
をきりしめいねいくよるぬる
をきりしめいねいくよるぬる

新古今十九種祇神の考に
はた天宮元年初書とて
又は天宮元年初書とて
又は天宮元年初書とて

おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる

おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる

おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる

おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる

おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる

じり女のあしなふたのあしなふた

きりしめいねいくよるぬる

おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる

おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる

じり女のあしなふたのあしなふた

おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる

きりしめいねいくよるぬる

おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる
おしし補けききりしめいねいくよるぬる

梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意

也

梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意

梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意

梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意

梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意

梅壺 壺に花を挿すの意

梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意

梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意
梅壺 壺に花を挿すの意



